

【ねがいはましては】

KYOWA SCHOOL

第374号

「自由な国で不自由に暮らす若者たち」

ある日の新聞で「目がテン」になる1文を発見しました。

「今の若者たちは、日本という自由な国にしながら、じつは不自由な生活を送っている。」

私の心の中で、しみじみと「なるほど」この一言でした。これは若者たちを子どもたちに置きかえても同様だと痛切に感じたのです。

朝、決まった時間に起床、決まった時間に登校、時間割りどおりの授業を経、そのまま部活動をこなし決まった時間に下校、帰宅。

朝出かけてから帰宅までの導線は、ほぼ同じコースをたどる毎日です。

学校帰りの「寄り道」というと、自然豊かな地域であれば何かワクワクするものを感じたりもするのですが、住宅地の中ではあまり楽しくないのかもしれない。

義務教育というしばりの中で成長していく子どもたち、同じようなレールを、皆同じ方向を見ながら高校、大学、社会人？ 就職が希望通りに行けば成功者？ これはあくまでもそのお子さんを育てられたご両親の満足感かもしれません。本人にとってのほんとうの人生の成功、不成功はそこからです。そして順調に延びたそのレールの上を斜め45度下を見つめながら歩いているのでしょうか。できれば斜め45度上を見つめながら歩いていただきたいのですが……。

日本国……基本的人権を保障され、自由に生きていくことが保証されています。その象徴的存在が「フーテンの寅さん」ということになるのでしょうか。子どもたちにとっては「だれ？」となるかもです。

少子化が進み、きょうだいが少なくなった昨今、親の子に対する期待度は以前より高まるのでしょうか。もし一人っ子であったなら……？

我が子の成長形を夢見ながら、高校受験、大学受験、就職。この周辺に生活される方々であれば、これが一般的な方程式となるのでしょうか。

私は思うのです。もっともっと自由であっていただきたい。農業・漁業・林業、自然相手のたくましい仕事に従事することだって立派な人生だと思うのです。それには何が必要なのか……。『出会い』だと私は思います。では、出会うためには何が必要か。私は『旅』だと思います。ではどうしたら『旅』ができるのか。それは休みの日、つまり時間が必要です。その時間、どこにあるのか……。？です。

日本政府はもっともっと、子どもたちに自由な時間（旅の時間）を感じさせる取り組みが必要だと思います。週休二日制になりながら、土日が部活動や塾で縛られ旅ができない。私の理想は家族で旅をしていただくことです。『旅』といっても気楽な散歩的旅です。わざわざホテルを予約し交通費をかけ旅をするのは、たっぷり金銭的に余裕のある方々にまかせておいて、テクテク歩く旅で結構です。会話がはずみ、発見があり、その先々で出会った方からお話を聞いたり、そうしているうちに人生を大きく変えてしまうような『出会い』があるのかもしれない。ある日、学校帰りに子猫に出会う、寒空の中、体はぶるぶると震えています。何とか救ってあげたい。その後元気に我が家の一員として生活できるようになった。これは理想のストーリーですが、努力むなしく動物病院へ連れて行きながらも、その短い一生をその時点で終えてしまうこともあるのかもしれない。そんな出会いの時、その子は獣医師になろうと決心するのかもしれない。子猫との出会いがそうさせました。

家族で出かけたお祭りで、珍しく「飴細工」の屋台に出会いました。あっという間にかわいい小鳥を完成させるその光景に出会い、私も飴細工職人になってみせると決心します。どんな出会いでも結構です。前へ、前へ、生きようとする「こころ」が芽生えた瞬間です。私はその瞬間が「ひと」になれた瞬間だと思います。

先ほどのレールへと戻りましょう。一定の速さで歩かないと、後ろから押されます。追い越そうとすると、冷たい目で見られます。脇見をすると、前の人にゴツン！

その時点で大切な感情が薄れていきます。「生きよう」とする感情です。「そうだ、みんなが歩く道をまねしながら生きていけばそれが一番居心地がいいんだ。」

そこから救ってあげたい。私の痛切な願いです。

あなた方は自由に生きる権利を持っています。その自由のお手伝いを私はしてあげたい。

以下のことにご協力いただけないでしょうか。

- ・子どもが精いっぱい努力している瞬間が真の「100点満点」、学校のテストでもらってきた100点は偽物。
- ・もし、お子さんが自己を真剣に見つめている瞬間をご覧になったら、精いっぱい褒めてあげてください。
- ・そのお子さんの生きようとする気持ちに寄り添ってください。
- ・それには家族の時間がたくさん必要になります。
- ・どうか良き旅をなさってください。